

# 中山間地域の小さなデザイン会社が 立体看板製作の新技术で経営革新

## 課題

### IT化による価格の低下、 都市部に集中する仕事

坂手修三デザイン事務所は、美術大学を卒業した経営者がデザイン会社勤務などを経て2010年に開業。かつて大手企業の製品デザインを手がけた実績から平面や立体デザインを得意とし、また、家業の看板製作にも携わった経験から、立体手法を活かした看板デザインも得意としている。顧客の8割は岡山県内で、地方でのデザイン業務はいわゆる「なんでもやる」ことが必須であり、多岐にわたる業種、業務に対応している。同社では、近年のデザイン業界をとりまく環境などから、以下の3つの課題を抱えていた。

- ①デザイナーとオペレーターとの境界があいまいになっており、作業時間の短縮化や制作料金の低下を招いており、適正な収益を上げられなくなっている。
- ②デザイン業界全体の売上高は、都市部に集中。しかも、主要メディアや広告代理店、大手企業などから迅速な対応を求められるため、依頼は都市部のデザイン会社に集中。
- ③小規模事業者である同社は経営資源に乏しく、中山間地域にあるため人材の確保も難しい状況に置かれている。

## 支援

### 新手法実現の設備投資や 販路開拓を支援

こうした課題を解決するため、同社では、真庭商工会の支援のもと新規事業に乗り出すことになった。それは、新たな立体看板造形手法の開発だった。

一般的な立体看板は、原形を製作後に型取りを行い、それにFRPなどの主剤を注入。成形・研磨・塗装の工程を経て完成する。各工程において専門的な技術が必要となるほか、待ち時間も多く生産性や収益性に課題がある。3Dプリンターはまだ設備や材料が高額で実用的とはいえない状況だ。

同社が開発したのは、写真などの平面（2D）を立体（3D）化するという発想から生まれた新手法で、専門的技術は必要最小限で熟練者でなくても製作できるのが特長。

この画期的なサービスを実現するため、商工会ではまず、必要となる設備費用のため、ものづくり補助金の活用を支援。経営者のイメージを可視化しながら計画書の作成を支援し、サービスの提供方法や新手法が最適な業界などを検討した。採択後は設備の導入支援や販売計画の策定などの支援を



「渋谷109」に納品した立体看板

行った。その後も商工会では、経営革新計画の策定も提案。2018年に計画書策定を支援し、承認された。この方法は低価格化や工程の標準化に成功し、ホームページからの発注が可能になるなど革新的な内容であったため、同業者からの模倣を防ぐ特許申請を行うとともに、経営革新計画承認による特許料の減免制度の活用を行った。

2019年には、豪雨災害の影響で大幅な減収減益となったため、豪雨対策型の小規模事業者持続化補助金を活用。「外食ビジネスウィーク2019」への出展や立体看板専用ホームページ制作も支援。展示会では、引き合い123件、成約8件と大きな成果を上げた。

### 支援の経過

| 期間      | 支援内容               |
|---------|--------------------|
| 2018年4月 | ものづくり補助金の申請支援      |
| 7月      | 先端設備等導入計画の策定支援     |
| 12月     | 経営革新計画の策定支援        |
| 2019年4月 | 持続化補助金の申請支援        |
| 5月      | 専門家を活用した販売戦略の検討・策定 |

### 会社概要

会社名：坂手修三デザイン事務所  
 住所：岡山県真庭市西原31-2  
 電話番号：0867-52-0002  
 URL：<https://rittai-kanban.com>  
 代表者名：代表 坂手修三  
 創業年：2010年  
 従業員数：1名  
 商工会名・担当者名：真庭商工会・牧野広和